

# イエス とは誰か？



イエスは、無力な赤ん坊として地上に来ました。奇跡によって身ごもった謙虚な若い女性のもとに生まれたのです。王の王となるように定められ、運命づけられていたにもかかわらず、支配者層からの称賛と栄誉を受けながら宮殿で生まれたわけではありません。それどころか、納屋の汚い床で、家畜やロバに囲まれて生まれ、ぼろ布にくるまれて、動物の餌箱の中に寝かされたのです。

その誕生は、人が作った組織によって歓迎されることも、認められることもありませんでした。しかし、その夜、近くの丘の中腹では、貧しい羊飼いたちが息を呑む中、星空にまばゆい光が輝き、大勢の天使による喜びの宣言がありました。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」

イエスは、慎ましい大工であった地上の父親と共に生活し、仕事をしました。そして、私たちをより良く理解して愛し、私たち人間の限られた理解レベルで意思疎通できるように、私たち人間と同じ生き方を経験したのです。その中で、私たちが苦しむ姿を見、深い憐れみを抱きました。

その生涯の仕事を始めたときには、あらゆる場所に行つて善を行い、人々を助け、子どもたちを愛し、傷ついた心を癒やし、弱い人を力づけました。教えを説くだけではなく、人々の間で、自分が説いたことを実践したのです。人々の靈的・身体的な必要に心を配って、病める者を奇跡的に癒やし、飢えた者に食べ物を与え、自らの愛を与えていました。そして、自分の評判を気にすることなく、社会に捨てられた人や虐げられた人とも交流しました。

神の真理と愛を説く教えが広まり、信者が増えるにつれ、国の宗教の指導者たちは、ナザレ出身の無名の大工であった人物が、いかに自分たちにとって脅威となつたかに気づきました。そこで、イエスを無実の罪で逮捕し、裁判にかけたのです。ローマ総督は、無罪と判断したもの

の、圧力を受けて、イエスを処刑することになりました。

遺体が墓に収められてから三日後、イエスは死からよみがえり、死と地獄と墓に対する勝利者となりました。イエス・キリストは、2千年ほど前のその運命の日以来、それ以前や以降に現れたどんな指導者や集団、政府、帝国よりも、歴史を変え、文明の流れを変え、人類の状況を変えてきました。何十億もの人を絶望と失意から救い、その名を呼び求める人すべてに、神の愛と永遠の命を与えてきたのです。

イエスは、単なる哲学者や教師、ラビ、導師ではなく、預言者でさえありません。神の御子なのです。聖書は、神は愛であると教えています。(第1ヨハネ4:8) 神はこの世を深く愛されたので、ご自分がどのような方であるかを示し、私たちをご自分のもとに招くために、御子イエスを人間の姿で遣わしてくださいました。イエスは世の罪のために死に、そして、復活しました。それによって、私たちが神と和解できるようにです。

イエス・キリストは、救いに至るための唯一の道です。あなたが自分の罪のために苦しまなくてすむよう、代わりに苦しみを受けたほど、あなたを愛しています。イエスをあなたの人生に迎え入れるなら、永遠の命という無償の贈り物を受け取れるのです。

心にイエスを迎え入れたい方は、次の祈りを心から祈ってください。

「イエスさま、私はあなたのことを知りたいです。私のために命を捧げてくださったことを感謝します。私がこれまで犯してきたすべての過ちをおゆるしください。私の心と人生の中に入つて、あなたの聖霊で私を満たし、永遠の命という贈り物をお与えください。アーメン。」